日本語 · 1983

A Bird’s-Eye View・全文

音声書簡を概観した歴史資料の全文です。序文と六つの節で構成されています。

英語の書き起こしをもとにした機械翻訳併用版です。記述や解釈は史料の内容を伝えるものです。

目次

- 序文
- ベーター博士について（1921年6月21日生、1987年3月14日没、J. V. 注）
- 一般的な所見
- 政治 · 世界の権力をめぐり対立する三つの勢力
- 経済 · 世界的な経済破局をもたらした人為的要因
- 軍事 · ハルマゲドンに向けた秘密計画と兵器
- まとめ

序文

英語の原文

ピーター・デイヴィッド・ベーター博士の音声書簡（AUDIO LETTER®）への序文

(オリジナル音声（MP3）)

ベーター博士の『AUDIO LETTER® REFERENCE DIGEST』より抜粋。© Audio Books, Inc., 1983.

音声書簡カセットテープのレポートは、1975年6月から1982年11月までピーター・ベーター博士によって記録されました。各音声書簡テープレポートの長さは約1時間です。リリースの基本的なスケジュールは月に1回だったが、リリースの正確な日はイベントに対応できる柔軟性があった。また、音声書簡の報告が一時的に中断された期間が2つありました。1977年5月から8月まで延長された最初の番組は、24号と25号を分け、ベーター博士がリスナーと共にアクションキャンペーンを行った。2度目のサスペンションは1980年2月から6月まで延長され、54号と55号が分離された。これは、音声書簡#54のレコーディング中にベーター博士が受けた大きな心臓発作によって引き起こされました。

1982年11月、音声書簡第80号を録音した後、音声書簡カセットテープシリーズを終了した。長年心臓病と闘ってきたが、彼の健康は衰えていた。医者と会ってから、テープの録音を中断する時間になった。

Dr. Beter Audio Letterシリーズは、1974年にラジオトーク番組を通じて最初にDr. Beterについて学んだサポーターとのコラボレーションから生まれました。当時、ベーター博士は全米のトークショーに出演する大きな需要があったが、それはほとんどの場合、ワシントンD.C.郊外の彼の住居から長距離電話を接続して行った。長年にわたり、ワシントンの弁護士、政府の役人、国際法務および財務コンサルタントとして非常に成功した後、ベーター博士は1973年にベストセラーの本「ドルに対する陰謀」の著者として有名になった。

彼のトークショーでは、ベーター博士は、当時大げさに聞こえたものを話す習慣があったが、それは後に正しかったことが証明されました。1973年初頭に彼は、アグニュー副大統領が夏の終わりから突然のスキャンダルに巻き込まれ、辞任を早めると宣言した。当時アグニューは高度を飛行していたが、それはありそうもない出来事のように聞こえた。しかし、それは予定どおりに起こった。1974年の春、ベーター博士はウォーターゲートスキャンダルがリチャード・ニクソンを史上初の辞任者にする一連の出来事について記述した。当時、ウォーターゲートは蒸気が切れているようで、ニクソンは「それを締め付けている」ように見えた。さらに信じられないことに、ベーター博士は、当時の副大統領ジェラルド・フォードがネルソン・ロックフェラーをニクソンが辞任した後の新しい副大統領に指名するという秘密協定が存在すると述べました。1974年の春には、こうしたことは信じられないほど信じられませんでした。しかし、彼らは起こった。

ベーター博士は、このような出来事は、世間に衝撃を与えながら、はるかに前に計画されていると主張した。彼は、彼らは特定の知性の中で知られており、アメリカや海外のビジネスサークルでさえも知られていたと言いました。ベーター博士は、これらのサークルとの豊富な接触に基づいて、特権的な数人がすでに知っていることを公表していました。

ベーター博士のラジオ出演に懐疑的なリスナーとして始まった後、ベーター博士の暴露が何度も証明されているのを見て、少数の民間人がますます懸念するようになった。彼らはさらに調査することに決め、ついに彼と連絡を取った。1974年9月、オーディオブックスは、ベーター博士が検閲や電波を制御した者による遮断なしに報告書を公開できる道を提供するため、ベーター博士の支持者によって設立された。AUDIO BOOK(R)テープを数本収録した後、1975年にDr. Beter Audio Letterシリーズがスタートした。

ベーター博士について（1921年6月21日生、1987年3月14日没、J. V. 注）

英語の原文

ピーター・ベーター博士（英語では Peter と Beter が韻を踏む）が広く知られるようになったのは、1973年のベストセラーのノンフィクション『The Conspiracy Against the Dollar』（ニューヨーク、George Braziller, Inc.）によってである。これは、国際経済の陰謀と金銭操作に関するグリップ・ストーリーであり、多国籍企業の協調行動によって実施され、多くのホスト国よりも強力になった。目的:「新しい帝国主義」の旗の下で政治的および経済的征服の主要ツールとして、意図的にドルを弱体化させ、最終的にドルを破壊すること。経済の「停滞」(ベーター博士が何年も前に生み出した今や人気のある言葉)の加速、市や州の政府の財政状態の悪化、社会的不安の深化、パナマ運河に対する緊張の高まりなど、不幸な結果が予想されました。過去10年間の出来事は、Beter博士が著書で明らかにした青写真に驚くべき程度まで続いています。

1974年9月、ベーター博士は「ノックス砦を開いた男」として新たな区別を得た。ベーター博士は4月に、ノックス砦にある伝説的なアメリカ地金支部が、そこに保存されているとされるアメリカの金貨庫から略奪されたという議会証言を告発した。彼は自分の容疑を証明する証拠と証人を提示する準備をしていた。しかし、大陪審も議会の質問も実現しなかったので、ベーター博士は彼の訴訟を直接一般の人に持ち込んだ。講演、ラジオトークショー、およびタブロイド紙(ナショナル・タトラー)で自身の告発の公開を通じて、彼は連邦政府にこのような強い圧力をかけることができ、公衆の抗議を継続するために完全に前例のない一歩を踏み出しました。米国財務省は1974年9月23日、数人の下院議員と100人の招待記者のいわゆる「金検査」訪問を手配した。しかし、ベーター博士自身は招待された人たちの中にはいなかった。ノックス砦の訪問と、続いて行われたいわゆる「金の監査」には、財務省が決して説明しなかった多くの不規則性が含まれていた。

音声書簡・テープ#14と#15(1976年7月と8月)において、ベーター博士は、ソ連が驚くべき核攻撃に備えて、米国の領土海域に短距離水中ミサイルを配備していることを公表した。15号では64発のミサイルの航法座標をリストアップし、これまで全世界に配備されていたと述べ、リスナーは参謀総長に対抗策をとるよう圧力をかけ、事実上政府に間違ったことを証明するよう要求した。全米のベーター博士のリスナーの声と声は、アメリカ政府内で衝撃波を巻き起こし、主要な報道機関からは決して報道されなかった。

1976年9月中旬、ベーター博士と准将は、ブラウン将軍のペンタゴン事務所で、アメリカ統合参謀本部議長のジョージ・S・ブラウン将軍と1時間以上会見した。わずか2週間前、ブラウン将軍の署名に関する手紙がベーター博士に送られた(全国の関係者に写しが送られていた)。ベーター博士がブラウン将軍に48発のミサイルの第2弾の位置を中継するよう要請したときも、会議は遅滞なく承認された。ペンタゴン紙は報道陣に、会議は*行われていたことを確認したが、この奇妙な一連の出来事は決して説明しなかった。

* ノーフォーク (Va.) Ledger-Star, 9月27日, 1976, p.E8ページ。G・ブラッドショーおよびJ・ケストナーの記事。あるいは、1977年12月4日のシカゴ・トリビューンの第2節「特別報告書:海中戦争」を参照。

専門家の資格:ベーター博士が公にした事は 異常なものですが 彼の公の視認性に先立つ 専門的な背景もあります 彼は1951年から1961年までワシントンD.C.で一般法を実践し 1952年にアメリカ軍事控訴裁判所、1964年にアメリカ合衆国最高裁判所のメンバーとなりました 彼の事件の多くは連邦政府に反対し 彼が勝ったものが多くありました 一つは 司法省が彼を破ろうとした記録を焼却した事件ですその結果、ファーリー対アメリカ、131 C. Cls. 776 (1955)、127 F Supp. 562 が新法を成立させた。

1961年、ジョン・F・ケネディ大統領はベター・カウンセル博士を西欧最大の政府所有銀行であるアメリカ輸出入銀行に任命し、1967年まで務めた。エグジム銀行を退社した後、ベーター博士は、ザイール共和国の民間国際ビジネスの主要な開発者の一人であるだけでなく、国際的な金融および法務コンサルタ

ントとなりました。彼は、司法協会、バンカーズ・クラブ・オブ・アメリカ、ロイヤル・コモンウェルス・ソサエティ・オブ・ロンドン、アメリカ海軍研究所のメンバーである。著書に『東部の誰』『ロンドンの青書』『達成した2,000人』(ロンドン)がある。

A Bird’s-Eye View・全文. ベーター博士の『AUDIO LETTER® REFERENCE DIGEST』より抜粋。
© Audio Books, Inc., 1983.

一般的な所見

英語の原文

Dr. Beter Audio Letterシリーズを構成する80枚のカセットテープには膨大な情報が含まれています。80本のテープを全部聴くのに、週40時間分かかる。

この2週間で、リスナーは7年以上にわたる大きな出来事がユニークな形で生かされるのを見ます。彼は職場で目に見えない力を見るだろうが、そうでなければ混乱して不合理なニュースイベントのように見えるものから意味をなす。そして、彼はあまり知られていない多くの目を見張るような歴史的背景の教訓を学ぶでしょう。

残念ながら、それは消防ホースから飲み物を飲むようなものです。リスナーは急いで多くのものを吸収しますが、さらに多くのものは彼によって得られるでしょう。

反対に、Dr. Beter Audio Letterテープを購読した人は、各テープを一度に1つずつ吸収し、現在のニュースイベントと一致するという利点がありました。しかし、このテープは1975年6月から1982年11月までの7年間にわたって発売されました。レアな知性なので、全てのテープの細部を念頭に置いて、新しいテープとつないだり合わされるのも珍しくない。Beter博士は、過去の開発を随時要約することで、この問題を軽減しようとしましたが、根本的な問題は残ります。レビューに関しては、80本のテープで表されるのと同じような、飲み放題のホース問題に、長年のリスナーでさえ直面している。

長年の購読者と新しく知り合いのリスナーの両方にとって、ロードマップが必要です。それが音声書簡参照ダイジェストの目的です。

「バード・アイ・ビュー」では、80テープ音声書簡レポートシリーズの幅広い洞察を、できる限り簡潔にまとめていきます。具体的な点を示す例を除けば、細心の注意を払います。このセクションの幅広い概要を考えると、セクション2とセクション3のすべての詳細は、テープ自体には言及されていないが、独立して見れば理解しやすく、はるかに意味があると考えています。

長期的には、それは理解するのが最も重要である現在の出来事の背後にある基本的な力のこの広い画像です。テープで議論されたいくつかの開発が彼らのコースを実行したにもかかわらず、それらをもたらした力が今日も動作し続けています。昨日の出来事にどのように影響したかを理解することが、今日と明日の無数の新しい出来事を見通す鍵です。

政治・世界の権力をめぐり対立する三つの勢力

英語の原文

何十年も前のフランクリン・ルーズベルトは、「政治で起きたことは、決して偶然には起こらない。もしそれが起きたら、そのように計画されたのは間違いない」と言った。

ビクトリア朝時代のイギリス首相として知られるベンジャミン・ディズレリは数十年前に、「世界は一般の人々が想像していたものとは大きく異なる人々によって統治されている」と記した。

まとめると、これらの2つの声明は、Dr. Beter Audio Letterテープレポートの根底にある基本的な前提を示しています。この前提は、政治、経済、国際関係の主要な出来事は、世界のほとんど目に見えない力派による意図的な行動の産物であるということです。これらの派生物はすべて、世界の一般人口である私たちに対する影響力を高めようとします。それぞれが、他の権力派を犠牲にして、自身の力を増大させたいと望んでいます。

したがって、常にニュースを形作るタイタニック次元の継続的な権力闘争がありますが、ほとんどの人にとってはほとんど理解されていません。これらの力が認識されていない場合や理解されていない場合、現在の出来事は、どれほど熱心にニュースをフォローしても本質的に困惑しています。これにより、最も教養があり、最も知性が高い人でさえ、背景に弦を引く人の目的に合わせて操作に弱い人を残します。対照的に、ほとんど目に見えない力が知られ、理解されている場合、主要な出来事ははるかに理解しやすくなり、ある程度予測可能になる。そうした情報を知った人々は、操作されたニュースやニュースイベントによって、より脆弱で、よりだまされにくくなります。

音声書簡シリーズの劇的な例の1つだけを選択するには、1978年11月にジョーンズタウンでガイアナ虐殺を検討してください。ギヤナ物語は最初から最後まで、異常、未回答の質問、矛盾する政府の声明、そしてあまり現れなかったニュースで満たされていた。それはアメリカ合衆国下院議員と新聞記者の虐殺から始まったが、その後の議会調査は無かった。犠牲者はシアン中毒で亡くなり、顔面が痛いままになり、平穏な列が整然と並んでいた。アメリカの軍チームが大量注入されてから数日後、ボディバッグの数が急増しました。ペンタゴンの広報担当者による急な説明はとても信じられないほどで、取り下げられ、別の物語に置き換えられました。ガイアナのエピソードについてのこれらと多くの奇妙さは決して解決されなかったが、時間とともに公共の記憶から消え去るために残された。ギヤナは、まるで奇妙で、メジャーで、冷え込みも全く理由もなく起こるかのように、世界の舞台裏の力に気付かず、いつまでも説明されないままです。

ガイアナに関する全ての報道で欠けている重要な要素は、ジョーンズタウンからそれほど遠くない所に、秘密のソビエト中距離ミサイル基地が存在することだった。ベーター博士は、ガイアナからの突然の見出しの前に、4年以上にわたって何度も基地について公に報告していました。彼はまた、かつては米国の真の支配者とソビエト連邦の人々の間で有効な協力協定の崩壊について報告していた。これらのことはジョーンズタウンの悲劇に直結する要因であり、ロシア軍がミサイル基地に対して隠蔽した軍事行動を可能にするための隠蔽として大量殺人が行われた。ジョーンズタウンの悲劇の数日後に、Dr. Beter Audio Letter #40は、何が起きたのか、その理由を正確に公表しました。そのテープの中で、ベーター博士は、今日まで答えられていない詳細な質問に答えました。

80 Audio Letterのレポートによると、Beter博士は、今日世界では3つの主要な権力派が働いていることを明らかにした。

1. ロックフェラー・カルテル2 ボリシェヴィキ・シオニスト公理3 新クレムリン支配者

これらの派は過去1世紀ほど存在し、相互の関係は一定の流動状態にある。しかし、彼らのルーツは、はるかに古く、何世紀にもわたって遡って追跡することができます。

ロックフェラー・カルテル

ロックフェラー・カルテルは、少なくとも2つの理由から、Dr. Beter Audio Letterレポートで広く扱われる3大パワーファシリティーのうち最初のものです。まず、その範囲は全世界的ですが、米国に本社があります。第二に、1975年にベーター博士が音声書簡の記録を始めたとき、それは間違いなく三派の中で最も強力でした。この状況は後に劇的に変化した。

ロックフェラー・カルテルは現在、世界最大の多国籍企業、重油、大銀行、大企業の数百社を受け入れています。新たな帝国であり、経済資産は単なる政府による効果的な支配を超越するほど大きい。本社はアメリカだが、その視点はグローバルであり、アメリカにも他国にも忠誠を誓うものではない。それはそれ自体に帝国です。

今日ロックフェラー・カルテルは、1世紀以上前にジョン・D・ロックフェラー・シニアによって始められました。ロックフェラーは、有名な経営戦略によってスタンダード・オイル・トラストを創設し、世紀の変わり目にはアメリカ初の億万長者となった。

このような明白な非倫理的な慣行は、1911年の最高裁判所の最高裁判所命令でスタンダード・オイル・トラストを解くこととなった。しかし、そのころまでにロックフェラーはより洗練されつつあり、その富と力を隠す方法を見つけながら、その拡張を続けた。「信頼を揺さぶる」時代はほとんど持続的ではなかったが、ノミネートやその他の装置を使用することで、表面的に解体されたスタンダード・オイル帝国の効果的な管理と調整を維持することができた。

20世紀を通じて、第一次世界大戦以降、ロックフェラーの経済力はますますロックフェラーの政治力に翻訳されている。このことはロックフェラーの経済力をさらに高めるために使われてきた。例えば、ロックフェラーの石油利害関係は手っ取り早く利益を上げており、石油はこの世紀のアメリカの主要戦争のすべてにおいて重要な役割を果たしてきた。しかし、この役割は、各戦争中の現在のニュースアカウントと、後に書かれた歴史的アカウントの両方で一般的に不明になっている。このタイプの重要な情報の曖昧さは、ジャーナリズムと教育の領域へのロックフェラーの力の拡大の兆候です。電源は認識されていないときが最も安全であるため、その情報を公開しないようにあらゆる努力が行われます。

ロックフェラーのスタイルによる「広報」は、同様の欺きの目的のために、世紀の変わり目から発展し、洗練されてきた。ジョン・D・ロックフェラー・シニアは、彼の欲望で有名だったが、通りで出会った人々にダイムを配ることで彼のイメージを変え始めた。同時に、彼は慈善家として公益を急ぐために、常に大ファンファーレと宣伝で慈善団体への寄付を始めました。ロックフェラーの資金は慈善団体に見える組織に投資されることができたが、実際にはロックフェラーの力をさらに拡大するための道だった。ロックフェラーが支配する主要な基礎は、ロックフェラーの支配にアメリカをより敏感にするための方向へのアメリカの生活と価値観を変換するために使用されています。同時に、財団はロックフェラーカルテルを構成するさまざまなビジネス利益を連動させるための偽装手段として、非常に貴重な目的を果たします。

ジョン・D・ロックフェラー・シニアが真の王朝を創始し、後世に引き継がれる計画と計画を引き継いだ。ジョン・D・ロックフェラー・ジュニアは、歴史的に基本的なアメリカの理想の基礎であるキリスト教の信仰を覆すことに特に重点を置いて、拡大し続ける力のロックフェラー計画を進めた。しかし、ロックフェラー・カルテルをその絶大な力に拡張し、発展させたのはロックフェラー「第三世代」でした。第3世代の6人のメンバーのうち、姉妹のアビーと弟のウィンスロップは、大計画についてあまり関心を示さなかった(ただし、ウィンスロップはアーカンソー州知事となった)。しかし、ジョン・D・3、ネルソン、ローレンス、デヴィッドの4人の兄弟は、ロックフェラー帝国拡大計画に巧妙な動きを見せた。彼らは世界を影響力の領域に切り上げ、それぞれが自身の領域に集中し、他の人と彼の行動を調整する。彼らはユニットとして協力し、音声書簡テープを通して、ベーター博士はそれらを「4人のロックフェラー兄弟」と呼んでいます。

第二次世界大戦前後から、ロックフェラー帝国の支配権を握った4人のロックフェラー兄弟であった。近代多国籍企業を創ったのは彼らで、第二次世界大戦後には「外国援助」という装いでアメリカの納税者

金を使って、世界中に企業帝国を築き上げました。第二次世界大戦はサウジアラビアの石油を巡って戦い、彼らに前例のない財政的打撃を与えた。ロックフェラー石油会社は、サウジアラビアの石油を1バレルあたり約5セントの純コストで(チャージバックとさまざまな機器の後)ほぼ30年間取得したが、1973年のアラブ石油禁輸が最終的に停止した。

サウジアラビアの石油が生み出した素晴らしい利益により、ロックフェラー兄弟は米国、ヨーロッパ、日本の産業基盤の多くを買い取ることができました。同時に第二次世界大戦中にネルソン・ロックフェラーが設立したラテンアメリカ全体のロックフェラーの勢力は、戦後の間に拡大し、さらに深まった。3代目のジョン・D・ロックフェラーは、ロックフェラー・カルテルの経済的な買収を熟知した:革命は黒人政府を創り出し、専門知識が不足していたので、ロックフェラーの経営資源を「管理」するためにロックフェラー多国籍企業に振り向かわなければならなかった。ローレンス・ロックフェラーはアメリカの航空宇宙産業と防衛産業、大手航空会社の支配と株式市場のマッサージで忙しかった。デヴィッドは最年少だが最も力強い人物であり、ロックフェラー銀行帝国の旗艦となり、その触手が世界中のビジネス界に手を伸ばした。ネルソンは知能問題も専門としていたが、ネルソンもこの分野に関わっていた。

ロックフェラー兄弟の4人は何十年もの間、それぞれ独自のやり方をとっていた。彼らは計画を立て、時刻表を立て、概してひっくり返さずに実行した。しかし、ベーター博士が音声書簡テープレポートシリーズを発売する頃には、ロックフェラー兄弟は力のしるしを見せ始めていた。間違いを犯し、時間表のいくつかがスライドし始めていた。1974-75年の間に、アメリカの金供給を取り巻く大規模な不規則性を部分的に公開することで、特定の計画で旅行されました。1976-77年の間、ロシアと長年の密接な同盟関係は崩壊し、旧同盟国であるボリシェヴィキはロシアで新たな与党グループに滅ぼされた。4人のロックフェラー兄弟は、ロシアから追放されたボリシェヴィキを、ここではアメリカ合衆国で権力を握った。1979年初頭には、ここでボリシェヴィキによって4人のロックフェラー兄弟が転覆した。第3代ジョン・D・ロックフェラーは1978年7月に自動車事故で亡くなった。1979年1月下旬、ネルソン・ロックフェラーは、舞台裏で起きたボリシェヴィキのクーデターの冒頭で殺害された。

今日ではロックフェラー・カルテルはロックフェラー家の直接支配下ではなく、4人のロックフェラー兄弟の支配下にあったが、依然として強力な部隊である。1982年11月にベーター博士が音声書簡・レポート・シリーズを終了すると、ロックフェラー・カルテルは徐々にボリシェヴィキとの激しい戦いの中で失われた力の一部を回復させていった。

ボリシェヴィキ・シオニスト公理

第一次世界大戦中の1917年、20世紀の歴史の大部分を形作る2つの出来事が起きた。一つはロシアにおけるボリシェヴィキ革命である。もう1つはバルフォア宣言であり、イギリス政府はパレスチナにユダヤ人の祖国を創るという概念に支持を投げかけていた。

ボリシェヴィキとシオニズムとして知られる政治勢力は、どちらも広く知られていない共通のルーツを持っている。どちらもロスチャイルドの利益によって作成され、その支援は1世紀前のジョン・D・ロックフェラー・シニアの富への流星上昇にも貢献した。ボリシェヴィキとシオニズムは、数千年前のいわゆる「ユダヤ人の王国」に共通の歴史的ルーツを持っています。この王国は、黒海とカスピ海の間に位置するロシア南部に位置する。それは、指導者が正式にユダヤ教を国家宗教として採用したモンゴル=トルコ起源のカザル人として知られている人々から成っていました。これは、カザリアが2つの強力な隣国の政治的独立を維持するための政治的策略として行われました。当時は、南方のカリフのイスラム帝国と西方のビザンティウムのキリスト教帝国という強大な力があった。

ユダヤ教が公式に採用される前は、カザル人は残忍で戦争的な人々でした。これは、彼らが政治的にインスパイアされた「ユダヤ人」の称号を自分で手に入れたときも変わりませんでした。ハザール帝国は、ウラジーミル公国の下でロシアとして知られたものに遠く北に延びました。ハザール帝国にはウラジーミルが統治した古代ロシアの都市キエフさえ含まれていた。

ハザールの支配は残酷で抑圧的であり、外部勢力への保護や文明の改善など、他の帝国による補償の利点はまったくなかった。最終的に、ウラジミール公のロシアとビザンティウムのキリスト教勢力が合併

して、ハザールの「ユダヤ人王国」を攻撃し、いわゆる「ユダヤ人の王国」を攻撃し、完全に破壊した。ハザール族の「ユダヤ人」は海の間の故郷から追い出され、その多くは東ヨーロッパへと追い出された。そこで彼らはパレスチナのディアスポラのユダヤ人とある程度混ざり合ったが、彼らは彼らに固有の遺産を運んだ。キリスト教一般、特にロシア系キリスト教徒にとって苦い憎しみの遺産でした。

何世紀にもわたり、失われた帝国を取り戻すという「ハザールユダヤ人」の夢は、世代から世代へと受け継がれてきました。この夢は2つの分野に発展しました。ある支部は、ロシアに対する権力回復を強調し、ボリシェヴィキに結晶化する。もう1つの分派は、古い、偽りの宗教である「ユダヤ人の王国」の概念を強調し、シオニズムとして知られる政治勢力として浮上した。どちらも世界大国を狙っている。どちらも人間の生活に敬意を払わずに、等しく冷酷です。地理的強調といくつかの戦術でのみ異なります。彼らの共通のルーツと共通の基本的な目的によって、ボリシェヴィキとシオニストは手袋で協力します。

1917年にボリシェヴィキがキリスト教ロシアに注入されると、ロックフェラー・カルテルの助けを借りて行われた。以後、その背後にあるアメリカの政策を支配する者(ロックフェラー・カルテル)とソビエト連邦を運営する者(ボリシェヴィキ)の間に密接な同盟が成立した。ロックフェラー・スタンダード・オイルの利益は、1926年にロシアの巨大なバクー油田から石油を販売していた。長年にわたって、ロックフェラーカルテルは、ロシアのボリシェヴィキ政権が、それを権力を維持するために必要なあらゆる方法で立てこもったことを知りました。

アメリカ合衆国とソ連が対立するふりをしている間、彼らは実際には世界全体を騒がせるためのピンサー運動に関わっていた。ワシントンとモスクワの間の不正な敵対関係は、世界を分極化させ、国家を2つの超大国によって支配される2つのキャンプに形成させるために舞台化された。米国とソビエト連邦の両方から独立することを選んだ人々 - いわゆる「第三世界」 - は、1つずつ、それらをかかとにもたらすために、ブラシファイア戦争と革命を目標としていた。一方、長期的目標は、秘密のホワイトハウス指令の言葉で「米国の生活を変えることで、ソビエト連邦の生活と快適に統合できる」ことであった。このようにして、最終的には全能の「一世界」政府が達成されることになる。これは20世紀初頭にカーネギー国際平和基金とロックフェラー軌道の基礎団体によって設立された「コミットメント」の達成であった。

ボリシェヴィキの下のソビエト生活のパターンにアメリカ人の生活を「マージ」するためには、アメリカの生活の質を大いに下げる必要があることは明らかでした。アメリカの政治体制を独裁制の方向に微妙な動きで進める必要があった。アメリカの金融・金融システムの弱体化が必要でした。急激な変化をもたらすために、アメリカとの戦争は慎重に敗戦状態に陥った。アメリカにとって初めての無勝戦争は朝鮮戦争であった。その10年後、アメリカは敗れたベトナム戦争に巻き込まれました。これは、ホワイトハウスが拒否した軍事的勝利のすべての可能性を人工的に引きずり出しました。

最終的な戦争は、主にアメリカとソ連の間のアメリカ本土で戦われた、注意深く計画された「核戦争1」になることでした。1970年代後半に噴火する計画が求められたが、ロシアの発展がそれを変えた。1917年からクレムリンを経営していたボリシェヴィキは、ロシア系ロシア人キリスト教徒の厳しい宗派による何十年も続いた転覆運動の標的となった。彼らの勢力は、スターリンが死んだ1953年に始まった特定の地域でボリシェヴィキの勢力を上回り始めていた。これが後にニキータ・フルシェフの有名な「スターリング解除」キャンペーンのきっかけとなった。1970年代半ば、この反ボリシェヴィキ派はついに権力の水準に達し、クレムリンで残っていたボリシェヴィキを完全に打ち倒し追放した。ロシアではボリシェヴィキの追放が相次ぎ、西側の報道では移民として描かれていた。

ボリシェヴィキがロシアに対する支配力を失っていると、いわゆる抑留は困難な状況に陥った。ロックフェラーとソビエトの同盟はボリシェヴィキの支配下にあり、それが終わったとき、秘密同盟も同様であった。この同盟は1976年の未だ秘密の水中ミサイル危機によって破滅させられ、1年後、宇宙における同じくらい秘密の「収穫月の合戦」によって完全に破れた。

この時点でロックフェラー兄弟4人は致命的な過ちを犯した。旧ソ連の秘密同盟国はボリシェヴィキであったため、彼らはロシアから追放されたボリシェヴィキを米国に迎え入れた。彼らは、追放されたボリシェヴィキはクレムリンを乗っ取り、ロックフェラー・カルテルが彼らと取引するのを助けることができた

新興の新進集団の弱点を知るであろうと理由づけた。

ロックフェラー兄弟が忘れていたことは、ボリシェヴィキは誰とでも権力を共有することができないということです。さらに悪いことに、ボリシェヴィキは国家社会主義者であり、政府によって少数の(それ自体)の手の中にすべての力を集中しようとします。一方ロックフェラー・カルテルは、企業社会主義を表しており、少数の企業の手に力の集中を、政府の干渉を最小限に抑えている。どちらも同じ目標を求めていますが、直径的に反対する手段によって。同じ社会では共存できない。

ボリシェヴィキはここで権力を獲得するやいなや、ロックフェラー兄弟4人を倒すために使うようになった。1978年半ばまでに、ボリシェヴィキはアメリカ戦略政策を第一次核政策に移行させていた。一方1978年7月、ジョン・D・ロックフェラー3世が死去し、4人兄弟の部隊が弱体化した。1978年11月、ギヤナ虐殺は、ペンタゴン・ボリシェヴィキが指揮する軍事作戦の一部として行われ、イスラエルの指揮官も参加していた。1979年1月、ネルソン・ロックフェラー殺害事件でボリシェヴィキの権力を奪取した。

1979年の最初の数ヶ月間、ロックフェラー政権はここでボリシェヴィキに崩壊した。しかし、ボリシェヴィキはロシアのKGBの介入によって買収入札の完全な成功に至らなかった。新しいクレムリン支配者たちは、ここでボリシェヴィキが完全に乗っ取り、すぐに核戦争につながり、それを防ぐために行動した。しかし、ボリシェヴィキは1979年初頭から1982年後半の音声書簡シリーズの終了まで、ペンタゴンを支配し続けた。

米国政府内では、ボリシェヴィキとロックフェラー・カルテルの間で激しい権力闘争が進行中であり、その元権力を奪還しようとしている。さらに1982年初頭にロックフェラー・カルテルとニュークレムリンによって、ボリシェヴィキに対する限定的な新しいクイッドプロクオが設立された。カルテルとクレムリンは、互いに和解するいくつかのアカウントを持っていますが、どちらもボリシェヴィキの致命的な敵です。彼らを破壊するために、彼らは特定の方法で協力することに合意しました。

米国のボリシェヴィキは、ロシアを破滅させる意図的な核戦争を主な目標としています。その戦争への道のりとして、中東は極めて重要です。その領域では、ここでボリシェヴィキは、戦争への道を歩むために、彼らの親しい同盟国、シオニストに依存しています。

ほとんどのアメリカ人がボリシェヴィキ化された政府の本質を知らないのと同じように、ほとんどのイスラエル国民はシオニスト政府の真の目標を知らない。アメリカ人もイスラエル人も、それぞれの政府の行動について心配と困惑で頭を引っかきます。常に平和を語りながら、どちらも戦争の危険性を体系的に高めています。

1977年以降イスラエルの過激なシオニスト政権は、1940年代のテロリストが率いる。今日では、世界第三位の軍事力の頭として、彼らはテロリズムを実践し続けていますが、より大規模です。イスラエルの地図が着実に成長するにつれて、意図的に新しい、より広い紛争につながるように設計された軍事テロの教義です。今日「イスラエル」と自称する国は、1917年にバルフォア宣言を提起した小さなが声の大きいシオニスト少数派の約束にほとんど似ていない。抑圧されたユダヤ人のための平和で静かな避難所は存在しません。1919年、著名な反シオニストのアメリカ人ユダヤ人によって発表された悲惨な警告は、シオニストイスラエルの血まみれの歴史において達成されている。

新しいクレムリン支配者

ベーター博士は1977年後半に、新しい非ボリシェヴィキ支配集団がソビエト連邦のトップ権力を掌握したことを初めて明らかにした。1978年の秋、彼はロシアとその新しい支配者に関する特別報告書に完全な音声書簡テープ(#38)を捧げました。

ロシアに対するイメージについて、米国政府の言論に頼っている人にとって、ニュークレムリンについてのベーター博士の報告は、明確なショックになる傾向があります。無神論とは異なり、サタニック・ボリシェヴィキは最近失脚し、ロシアの新しい支配者は、先住民のロシア人キリスト教徒の宗派のメンバーです。この宗派は少なくとも2世紀前のものであり、時にはカール家にも多大な影響を与えた。

ベーター博士は、リスナーは、ニュークレムリンの支配者たちが西洋のキリスト教徒と同じようにすべてを見ていると仮定しないように警告します。一つには、ロシアでボリシェヴィキを最強の勢力から追い出すのに60年の忍耐強いキャンペーンが必要だったと指摘する。その経験は、ボリシェヴィキやシオニストのような人々を扱うときに何が機能し、機能しないかについて、非常に明確で鮮明な意見を残しました。彼らはまた、あらゆるタイプの急激な急激な変化が革命の扉を開き、革命があるところには、ボリシェヴィキ・シオニストエージェントがそれを活用します。彼らは徐々にロシアに自由化の変化をもたらしています。ここまできたので、彼らはあまり速く動かないようにしています。その結果、すべての取り消しを可能にするリスクがあります。

それでも、目に見える変化が起こっています。1979年の初頭には、ボリシェヴィキ革命以来初めてのロシアへの聖書の合法的輸送が行われた。そのイースターであるハンデルのメシアは、ボリシェヴィキ革命以来初めてロシアで上演され、いくつかの場違いな場所ではなく、モスクワ音楽院で上演された。ビリー・グラハム博士が1982年5月にモスクワの宗教会議から戻ったときに世界に向けて語ったように、教会はソビエト連邦全体で1つずつ再開されています。

グラハム博士は、ロシアで宗教について彼が見たことについて何をしたかについて、アメリカで敵対的なレセプションに遭遇しました。現在、米国政府を支配しているサタニック・ボリシェヴィキは、憎しみに値する敵としてロシアをペイントするための力のすべてをやっています。その画像に干渉するものは何でも抑圧される。ボリシェヴィキはいつか、アメリカにロシアと戦争をしたいと願っているからです。

経済・世界的な経済破局をもたらした人為的要因

英語の原文

何世紀も前、ロスチャイルド王朝の創始者であるメイアー・アムシェル・ロスチャイルドは、「国の金を発行できる力を与えて下さい。

お金は文明そのものの進歩に不可欠な要素です。価値と交換の媒体として、お金は、唯一の代替手段であるバーターのシステムよりもはるかに便利で柔軟です。金銭は、労働の分割、個人による才能に応じた専門化、および事実上すべての努力領域の進歩に必要な複雑なパターンへの人間の活動の組織化を促進します。スケール経済やその他の効率性を可能とすることで、単なる生存に必要なレベルをはるかに超え、人間の生産性を向上させることさえ可能になります。これにより、文明がより洗練され豊かになる芸術やその他の文化的進歩を支援する社会が可能となる。

つまり、お金は社会をつなぐ経済的な接着剤なのです。正直で安定しており、操作されていない場合、お金は社会のすべてのメンバーに等しく有益である中立的な役割を果たします。例えば、懸命に働くことで、人は他人から購入したものに対してすぐに支払う必要がある以上の収入を得ることができます。余剰は、特別な費用を払うか、何か特別なものを購入したり、仕事から引退したり、過去の労働の成果を生かしたりするために、いつでも費やすことができます。稼いだお金は、社会に大切にされている仕事と、それに対して支払われる仕事とを反映している。

社会の経済共通の分母としてのこの役割は、それが間違った手に巨大な力 - サタニズム力 - のツールを作らそれは社会の経済共通の分母として、この役割です。国家のお金を発行した人は、正直な労働によって私たち全員が獲得しなければならないことを、薄い空気から作り出すことができます。貨幣の発行者は、従って、ペンのストロークで彼の詐欺的なスキームを進めるために協力する他の富をすることができるので、他の個人よりも比類のない力を得る。どんな社会でも、このように快適に汚されたいと考える人は、常に十分な数の個人があり、政府権力の役職に就いているのは彼らです。ロスチャイルドが「誰が法律を書こうとしないかは気にしない」と言ったとき、それはロスチャイルドが意味していたことです。貨幣を発行する力は、政府を自分のために形作る力です。

国民のお金を発行する力があれば、その価値を変える力もあります。これにより、社会におけるあらゆる経済取引が測定される基準が変わり、社会全体から一度に盗む方法となります。お金の形で彼の労働の過剰な果実を脇に置く人は、彼が後でそれを使用する準備ができているときに、それはもはや同じ量の価値がないならば、盗まれます。それはもちろん米国で今日起こっていることです。

アメリカ独立戦争の時には、ヨーロッパ、特にイギリスにおけるロスチャイルドの財政力は素晴らしかった。スタンプ税や革命の引き金となったその他の抑圧的な措置はジョージ1世の署名を生んだが、ロスチャイルド家の発祥であった。革命はロスチャイルドの金の支配から解放された旧植民地を破った。

アメリカ合衆国憲法の枠組みは、腐敗した私的に発行された金銭の悪をよく理解していた。従って、彼らはいかなる種類の私有中央銀行の創設も拒否した。その代わりに、アメリカ合衆国議会は、国の金を発行し、規制するための憲法上の義務を課した。理論は、議会がすべての人々を代表するので、私たちのお金の議会制御は、可能な限り公正で最も公平なシステムであるべきです。

当時から20世紀初頭まで、ロスチャイルドの利益によって、この地で失われた金の力を、直接的または間接的に再確立しようとする試みが繰り返された。その一例がアメリカ合衆国銀行であり、その憲章は1832年にアンドリュー・ジャクソン大統領によって解約された。同様に、南北戦争は奴隷制や州の権利に関する問題だけでなく、金銭の発行をめぐる闘争の強い要素も含まれていた。しかし、この試みは失敗に終わり、一部は戦争の危機的な潮流にロシア海軍が介入し、イギリスとフランスが戦争で荒廃したアメリカ合衆国を切り離すのを防いだ。

そのため、ロシアはロスチャイルドの利益によって破壊される予定でした。また、アメリカのお金を支配するための最良の方法は、内部から得ることと決定されました。そのため、ロスチャイルド族はアメ

リカ合衆国内の幾つかの有望集団に支援を貸し出し、「強盗男爵」の時代を幕開けさせた。ロックフェラーズはすぐにトップに昇った。1913年、ロスキッズ兄弟は最終的に、連邦準備制度と呼ばれる個人所有の中央銀行システムという、彼らがここで探していたものの創造を見た。ロックフェラーの関心の高まりによって非常に大きな参加(実際には主導的役割を果たした)を伴ったジョイントベンチャーでした。しかし、少なくともロスチャイルドは、ついにアメリカの通貨をコントロールするためにドアに足を踏み入れました。

1917年、ロスキッズ兄弟はボリシェヴィキ革命によりキリスト教ロシアを滅ぼすことを目標に掲げた。連邦準備制度の場合と同様に、基本的な概念はロスチャイルドに触発されたものだった...しかし、計画が成功したのはロックフェラー筋肉だった。ロスチャイルドがプロテスタントとして始めたロックフェラー・カルテルは、すでにパートナーの地位に昇った。そして、第二次世界大戦後、ロックフェラーズはロトスチャイルドの力を奪い、その力を奪ったのです。この状況は1970年代の終わりまで続いた。現在、ロックフェラー家の崩壊により、ロックフェラー派とロスチャイルド派との均衡は揺るぎなく、両者とも新たな覇権を争っている。

連邦準備制度は経済安定を改善するための処方として一般に販売された。しかし、1929年の株式市場の崩壊とそれに続く大恐慌は、意図的な連邦準備制度の行動によって大部分がもたらされたことが記録されている。1920年代の大強気市場は、簡単にクレジットによって、ほとんどの10年間、動いて維持されました。1929年までには、高騰する株式市場は、巨大で不安定な信用基盤、すなわち負債に頼っていた。連邦準備制度理事会はその後、信用を厳しく契約することで、ほんの数ヶ月で財団を破壊した。言い訳は、良い音、すなわち有害な投機に対する弾圧のために設計されました。しかし、現実的で予測可能な効果は、多くの投資家が突然「マージン」の株式市場の購入をカバーできなくなり、現金を調達するために株式を販売せざるを得なくなったことです。連邦準備制度理事会は急落を止めるため何もしなかったが、売りはそれゆえに自給自足のきっかけとなった。株式市場は崩壊した。

経済大惨事が起きた後、連邦準備制度理事会はすぐに、それが全滅的な恐慌に陥ることを確実にした。これは、株式市場の崩壊そのものではなく、その後のアメリカの銀行システムの失敗によってもたらされました。連邦準備制度の主な目的は、銀行の安定を維持することであり、ローカライズされた銀行問題が広がるのを防ぐために、最後のリゾート(特に)の貸し手として参加することである。しかし1930年代初頭に、当時の大手銀行、ニューヨーク銀行が崩壊し、連邦準備制度はそれを阻止するために指を離すことを着実に拒否しました。これにより連鎖反応が起こり、さらに銀行が減り、他の銀行も減った。連邦準備制度は、この過程を止めるどころか動いており、進行するにつれて介入しなかった。1930年代の世界恐慌にアメリカと世界が急落した。

ほとんどの人にとって、うつ病は緩和されていない災害です。誰もがそれから利益を得ることができるとは想像し難い。しかし、金の支配者や富裕な同盟国にとって、世界恐慌は富と権力を増大させる絶好の機会となった。何が来るかを知ることで、彼らは他の全員を破滅させる破滅的な財政的損失を避けることができました。そして恐慌の真っ最中、彼らは1ドル1セントで会社、不動産、その他の資産を買い取る立場にあった。経済が回復すると、これらの資産は価値を取り戻し、新しい所有者にとって大きな利益を生んだ。

皮肉なことに、彼らのマネーコントロールを使ってアメリカ経済を災害に巻き込むことで、両替業者はアメリカの通貨システムに対する権威をさらに拡大する段階を踏み出した。1933年にフランクリン・ルーズベルト大統領が就任したとき、彼は銀行の休日の宣言から始まった一連の一連の一掃の動きを開始した。米国は金本位制を脱した。アメリカ人は金貨を全部回すように求められた。その後、アメリカの金へのタイトルは、連邦準備制度に引き継がれました。しかし、連邦準備制度は、アメリカ合衆国財務省が金の物理的な管理人となったため、現在所有している金の世話に時間とお金を使う必要性から解放されました。

連邦準備制度は、紙を印刷し、信用をコントロールすることで、アメリカ経済をいじくり回す自由となった。ドルに対する金の支持が減少するにつれて、自由は年々着実に成長した。1968年にジョンソン大統領は、金の最後の25%をドルから取り除く法案に署名した。1971年、ニクソン大統領は国際金の窓を閉

ざし、国際債務の金への決済を中止した。これは、米国ドルを純粋に紙に残し、金または本質的な価値の他のものと完全に離婚した。これは、他のすべての人の費用で自分自身を豊かにするための操作のために作られたマネーコントローラにとって理想的な状況です。ドルは1944年以来世界的準備金となっているため、これは世界中の誰もが現在米国で進行中のドル操作に犠牲になっていることを意味します。

1971年以降、インフレはアメリカ合衆国で、したがって世界中で絶えず問題になっている。一時的に減らすたびに、失業の増加と経済活動の停滞を犠牲にして遅くなります。経済が回復すると、インフレはすぐに再び新しいレベルとより高いレベルに離陸します。連邦準備制度理事会は、(1929年のように)我々の最善の利益に目を向けていると主張し、新しい歴史的最高値に達する新しい金利を押しつぶして応答します。再び失業率は上昇し、以前のサイクルから完全に回復したことはありません。サイクルの後、インフレと経済停滞の両方が悪化し続けています。2つの条件のバランスは前後に変化し続けていますが、インフレと停滞の両方が私たちと一緒に継続的に同時にあります。私たちは、1973年の著書『ドルに対する陰謀』で、ベーター博士が予見する「停滞」の時代に巻き込まれています。

かつては強力なアメリカ経済の崩壊は、進行中のドル自体の破壊の直接的な結果であり、意図的な結果です。ドルが完全に崩壊する時が来るだろうし、それと共に、私たちが知っているように、米国の経済と世界の多くの。その時点で、他の通貨が崩壊したときに常に行われてきた同じことを行う必要があります。自信を取り戻すためには、新しい通貨、つまり新しいドルが必要となる。何千年もの間、信頼性が高く、普遍的に受け入れられてきた通貨の信頼の基盤となっている商品は金です。そのため、金は、新しいドルを含む安定した国際通貨の新しいシステムを設定するために使用する必要があります。

一方、国際通貨乱れの時代が到来し、金や強い金が支える通貨だけが信頼されることになります。その間、ドルで測定された資産は、すでにやっているように、あまり急激なペースで、減少する。世界の金の供給を横取りした人々は、自分の保有物と力を非常に拡大するのに最適な位置にあります。だから、米国財務省や連邦準備制度の公式書とは違い、アメリカの通貨の金は、その大半が奪われています。1961年のロンドン・ゴールド・プール協定で始まり、7年間に渡り、多くのアメリカの金貨がノックス砦やその他の地所から流血し、海外に送られた。また、公式記録には全く反映されていない金の秘密の出荷がありました。

マネーチェンジャーは、彼らの管理とマネーの操作、特に米ドルを通じて、無数の数百万人が懸命に生産していたものを盗み出しています。そして、1929年以降もそうであったように、彼らは再び世界規模の経済大災害に見舞われるようになっている。

軍事・ハルマゲドンに向けた秘密計画と兵器

英語の原文

ほとんどの人にとって戦争は人間の出来事の中でも最高の悪であり、可能なら避けることです。国を支配する人々にとって、戦争は意図的に使われる力の道具である。戦争は、国の力の地理的拡大など、外部の理由で使用することができます。さらに重要なことは、戦争は、政府自身が国民に支配権を課すのに最適な言い訳である。「国家安全保障」を引用することで、政府は独裁的なコントロールでさえも自分たちの利益のためにあると国民を説得することができます。

これらの原則は、マキャヴェリが数世紀前に示したもののうちの1つであり、マカイヴェリは、彼らが定期的に戦争を権力の道具として使うことを全ての支配者に勧めた。しかし、20世紀初頭、カーネギー、ロックフェラー、そしてその日の同盟国は、彼らの力は絶対的で、恒久的に保証される世界を夢見ていました。それは「平和」の世界です - 世界の平和は彼らの手には不可避です。彼らは、最終的な「一世界」政府を確立するための「コミットメント」を形成した。

このワンワールドの「コミットメント」を調整するために設立された主要な機関は、免税基盤であるカーネギー国際平和基金でした。一国政府の「平和」を思い起こさせるには、アメリカ人や世界の他の人々の生活に、大きな変化がもたらされる必要があることは明らかでした。第一次世界大戦の数年前、受託者は一年中、国民全体の生活を変える上で戦争よりも効果的な方法があるのかという議論を続けた。答えは「いいえ」でした

というわけで、一国政府に対する長距離のコミットメントの下で必要な変化をもたらすためには、アメリカが戦争に巻き込まれる必要があったのです。受託者はこれをどのように行うか議論し、米国の外交政策機械を制御する必要があると結論付けた。このことは、国務省に対する統制が確立されなければならなかったことを暗示した。

数年のうちに、これらの審議の成果は米国の行動に現れ始めた。1916年にウッドロウ・ウィルソン大統領が「戦争から身を守ってくれた」というテーマで再選された後、アメリカ合衆国はすぐに第一次世界大戦に突入した。彼らが望むアメリカの生活の変化が起こり始めていた。

第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争は、いずれも、長距離の単一世界コミットメントの目的を果たすように設計された方法で組織された。しかし、第二次世界大戦から数十年の間に、一国間コミットメントの開始者によって予期せぬ要因が着実に重要になってきました。この要因は、武器技術の加速を加速させることでした。原爆から始まった核兵器は、20世紀初頭には夢を見なかった方法で進歩してきました。そして、これらの新しい技術力は、当初想定していたように、ワンワールドコミットメントの段階的崩壊に重要な役割を果たしてきました。

1960年、アメリカの科学者たちがレーザーを発明した。初期のレーザーは粗大であまり強力ではなかったが、理論的な研究から、いつかレーザービーム兵器が可能であることは明らかだった。他のタイプのビーム兵器も予測され、レーザーよりも壊滅的な可能性がある。

突然、「ワンワールド」のコミットメントに致命的な欠陥がありました。欠陥は、それが人間の活動の領域全体として、地球という1つの世界だけを想定していたということです。人類が宇宙の征服を始めていたため、それは変化し始めていた。1957年、レーザーの発明の3年前、世界初の人工地球衛星はソビエト連邦のスプートニク1世によって軌道を周回していた。歴史上初めてこれを成し遂げた国であることの名誉は、アメリカが技術的に最初にそれをできたにもかかわらず、ソビエト連邦に引き渡されました。ソビエト連邦の宇宙計画は1960年にレーザーの発明が突然宇宙競争に緊急の新しい次元を追加したとき、米国のそれよりも遥かに先行していた。レーザーなどのビーム兵器からのビームは、光の速度で宇宙を移動し、数秒以内に100万マイル(約1万km)離れた目標を攻撃することができます。月をコントロールする人なら誰でも、いつか地球をコントロールするためのビーム武器の基地として使うことができる。

1961年、4人のロックフェラー兄弟は、月を中心として、世界支配のための精巧で2つの突飛なプログラムを開始した。一方、アメリカは軍縮計画に着手し、アメリカの目に見える軍事力を奪った。しかし一方で、一般の人には知られず、議会でさえもほとんど知られていない高度な新秘密兵器の開発に重点が置かれることとなった。そして、偉大な冒険の装いの下で、月はアポロ計画によって許可されていない軍事目的のために押収されるでしょう。

4人のロックフェラー兄弟は、将来計画される核戦争において、秘密の同盟国であるソビエト連邦の最終的な二重十字架を思い描いていた。月を制圧し、壊滅的なビーム武器をそこに設置することで、彼らは全世界の最後の絶対的な支配者として出現すると期待されました。

1961年5月、ジョン・F・ケネディ大統領は、アメリカ合衆国が月面に男を着陸させ、10年が終わる前に無事地球に帰還することを発表した。こうして、第二次世界大戦中に原子爆弾を開発するためにマンハッタン計画よりも10倍大きい事故計画が始められました。隠すには大きすぎるので、その軍事的性質は、月面岩を拾うための幼虫としてすべてを描くために、絶え間ない宣伝の輝きに装った。成功したのです

ニール・アームストロングが1969年7月に月面に初めて月面に足を踏み入れたとき、それは世界にとってセンセーショナルな出来事でした。しかし、3年も経たないうちに、アメリカの有人月探査計画が一般大衆の目から外されるのも、十分に日常的になってきていた。最後の月面飛行は1972年12月のアポロ17号である。その後、米国の国民がウォーターゲートスキャンダルやその他の問題にますます吸収されるようになるにつれて、米国の月プログラムは密かに新しい基地から続きました:インド洋のディエゴガルシア島。そこでは、月への道の駅としてSkylab宇宙ステーションを含むさまざまな発射技術が使用された。

これらすべてが進んでいる間、ソ連では予期せぬ発展が進み、ボリシェヴィキの段階的な転覆が着実に加速していた。1960年代半ばまでに、新しいクレムリン支配者たちは、計画された核戦争におけるロックフェラーの二重十字架について学んだ。彼らはボリシェヴィキの転覆を完了させるための努力を倍増させた。また、ロックフェラー兄弟をパンチに打ち負かす準備を自身の二重十字架で開始した。

1970年代半ばまでに、ロックフェラーの主要免税財団の現在の信託人はますます心配になってきていた。1つの世界のコミットメントが2世代前に形成されたことが軌道をジャンプしたという兆候が倍増していた。正しかった。

1976年の夏には、ベーター博士は、今日まで公式に公表されていない大きな危機について報告した。これは、ソ連海軍がアメリカ領海内に核弾頭を備えた小型水中発射短距離ミサイルを配備していた水中ミサイル危機である。これらは目標の近くに植えられ、衛星の命令によりすぐに発射されることができた。発砲すれば、沿岸の目標地域は事実上0の警告時間で破壊される。それらは、沿岸のソナー防御網によって検出されることなく、アメリカの領土水域に出入りするように設計された、小さなソナー吸収性、超静かな小型潜水艦によって植えられました。

ベター・音声書簡・レター・リポートによるこの危機の限定的な暴露により、当時参謀総長であった故ジョージ・S・ブラウン将軍が行動を起こすことができた。当時のヘンリー・キッシンジャー国務長官からの抗議に対して、ブラウン将軍は当時の大統領ジェラルド・フォードに、アメリカ海軍にミサイルを撤去するよう命令する命令を出すよう説得した。1976年9月、ベーター博士と仲間がペンタゴンの事務所でブラウン将軍と会って、危機について話し合った。その会議で、ベーター博士はブラウン将軍に、ソ連水中ミサイルの第2弾の位置を提供した。ブラウン将軍は、元ロックフェラー=ソビエト同盟との文脈で、キッシンジャーが作り出した「情報格差」のおかげで、この情報は持っていなかった。

ソ連のミサイル植林計画の暴露は、驚きの重要な要素を奪い、その時点での戦争を回避するのに役立ちました。それでもブラウン将軍は、かつてのロックフェラーとソビエトの同盟を回復しようという絶望的なロックフェラーの試みの一環としてすぐに中和され、多くのソビエトのミサイルがアメリカの海域から撤去されることはなかった。

ソ連の水中ミサイルに対する即時危機が終息すると、ベーター博士は他のミサイルも海中に植えられていることを知った。これらは以前に植えられ、ソ連ではなく、アメリカ人でした。国際条約に違反して、

アメリカ合衆国は大西洋および太平洋の海底に多弾頭ミサイルを配備し、ソ連を標的とした。

新しいクレムリンの支配者たちは、4人のロックフェラー兄弟が旧同盟を締結することに成功したと納得させるため、時間を守った。しかし、彼らはクレムリンからボリシェヴィキをルーティングし、ロシア内の多くの高レベルの権力から抜け出していた。同時に、彼らは水中ミサイル危機のそれよりも多くの決定的な驚きのための準備を仕上げていました。

1977年の秋が近づくと、コペルニクス・クレーター(英語版)に月面に所在する秘密の軍事基地でアメリカのビーム兵器が運用状態に近づいていた。しかし、1977年9月27日、収穫月の夜に、基地は攻撃され、ソ連によってアクションを解除されました。ロシアは10年間、粒子ビーム兵器のファミリーを開発するためのクラッシュプログラムに関わっており、それはほぼ光の速度で目標に亜原子粒子を発射する。軌道を周回する有人衛星から発射された中性子ビーム兵器は、アメリカの月面基地ですべての宇宙飛行士を殺害しました。(この事故でロシアの衛星は部分的に故障していた。これは原子力衛星コスモス954号で、4カ月後にはカナダ北部に地球にやって来ることで世界的感覚を生んだ。事故ではなく緊急着陸だった)

秘密の米国の月基地の沈黙は、ソ連による宇宙の落雷軍事的乗っ取りの始まりでした。1977年の最後の数ヶ月の間、ソ連はアメリカにはない有人戦略兵器を「宇宙三脚」として配備した。最初に「宇宙インターセプター」キラー衛星がやって来て、それは粒子ビーム兵器を使って他の衛星を生死から吹き飛ばす。アメリカの偵察衛星と早期警戒衛星を1つずつ追跡し破壊し始めました。1978年の春までには、およそ6ヶ月以内にその仕事は終了した。一方、ロシアの新しい支配者は、アメリカ合衆国がSALT IIによって軍を編成し始めるか、不明確な惨事を起こすかを要求していた。これらの状況は1978年4月に、韓国の航空会社がソ連で最も敏感な軍事航空スペースに飛行するという、必死の情報ミッションにつながりました。ロシアのジェット戦闘機は旅客機を撃墜したが、航空機に搭載された特別な装置が、ソ連軍の警戒状況に関する重要なデータをCIAの受信者に送信した。

1977年10月中旬、ロシアの宇宙インターセプターは、アメリカが月へ帰還しようとするのを阻止するため、スカイラブ宇宙ステーションを破壊。スカイラブは1977年10月18日、アメリカ合衆国の大半で見られた巨大な火の玉で亡くなった。NASAは謎の巨大火球に関する謎めいた質問が消えるのを1週間ほど待ってから、Skylabは予期せず軌道から沈んでいくと、長い隠蔽プロジェクトを開始した。このうそは、Dr. Beter Audio Letterシリーズの開始から終了まで続いた。

ロシア宇宙飛行隊の第2脚が配備され、1977年10月と11月に試験が行われた。地球を目標とした月面高出力粒子ビーム兵器のネットワークです。1977年11月にベンガル湾で最初の試験が行われた。ビーム兵器は巨大な二重のフラッシュを作り出しました。最初のテスト撮影では、意図的な誤りがあったようで、彼らはまた、南東インドの海岸線の広い地域を不時着する警告なしにサイクロンからレースに来た巨大な潮波を作成しました。それ以来、月のビーム武器は、天候修正のために、外洋のターゲットエリアでのみ発射されています。

ベーター博士は、1977年末にロシアの月面ビーム兵器によって生成された特徴的な鮮やかな二重フラッシュについて最初に報告しました。2年近く経った頃、アメリカの衛星ヴェラが南大西洋でこれらの二重フラッシュの1つを検知した。このことは、イスラエルが南アフリカの助けを借りてその地域で原子爆弾を試験していたという劇的な噂にしばらくつながった。しかし、核兵器はまた、南大西洋エピソードには存在しなかった二重のフラッシュとともに放射線のいくつかの追加種類を生成します。衛星が誤って検出したのは、1980年2月にベーター博士が詳細に説明した人工嵐を生成するための新しい技術のテストでした。それ以来、そのような人工嵐は気象戦争の武器として繰り返し使用されています。

ロシアの「宇宙三脚」の3番目の脚は「宇宙圏」と呼ばれる、重力によるホバリングプラットフォームの艦隊です。アメリカ合衆国が開発していた可能性があり、1960年代初頭、トーマス・パワー将軍(当時は戦略航空司令部司令官)らがこれを実施するよう促した。でも、アメリカの秘密の宇宙卵は、アポロ計画のバスケットに入れられました。一方、ソビエト連邦はこれらのプラットフォームの開発を進め、1977年12月に運用開始した。数か月間、彼らはアメリカ東海岸やその他の場所で、謎めいた巨大エアブーム

を生みだすことによって、髪を育てていくという存在を公表した。彼らは、強力な荷電粒子ビーム兵器をデフォーカスモードで大気中に発射し、事実上空気自体を爆発させた。空爆はアメリカ政府の脅迫の試みであったが、その点ではそれほど成果は出なかった。数ヶ月後、空襲は中断された。

今日では、ロシアの宇宙はアメリカの戦略目標のあらゆる種類よりも高いパトロールを日常的に行う。特にアメリカ軍のICBM基地を警備し、ミサイル発射時にミサイルを発射する準備が整った。

今日の米国の戦略兵器プログラムは、ソ連の秘密の「宇宙三脚」兵器に対抗するために設計されています。これらの武器はロシアの新支配者によってまだ公開されていません。同様に、アメリカの支配者は、ロシアが持っているがアメリカが持っていないこれらの武器の存在を公に認めていない。アメリカの国民はパニックから、アメリカの「宇宙の隙間」に対する怒り、そして今まで嘘をついたことへの怒りまで、あらゆることに反応するのを恐れています。大陸会議もほとんど操作され、情報も得ていない状態となり、極端に悪くなる可能性がある。

そのため、1978年の初めから米国では、墜落秘密兵器計画が進行中ですが、それらは隠されているか、本当の性質が偽装されています。新しい赤外線ターゲティングを備えた高出力レーザー兵器から、超出力の「Doomsday」コバルト爆弾弾頭を備えた分数軌道爆撃用のTitan II ICBMの改造まで、幅広い武器が関与しています。

この「バード・アイ・ビュー」セクションでベーター博士が報告したこれらの開発をすべてレビューすることは実用的ではありません。その代わりに、基本的な状況は、MXミサイルと「ステルス」航空機プログラムの2つの武器プログラムのみを検討することで説明できる。これらの計画の公式な正当性は、主にロシアの大型ミサイルについて誰もが知っているロシアの武器の観点から常に示されています。これらの説明は、真実ではないため、決して現れません。結果として、議論や質問がこれらのプログラムを中心に渦巻いている。古い理性が崩れ落ちていくにつれて、新しい理性が考案される。ロシアの「宇宙三脚」に関する真実が知られているときのみ、米国の武器プログラムは意味をなします。楽しい意味ではなく、意味です。

1980年6月、Dr. BeterはMXプログラムについて詳しく説明した。大きなMXミサイル自体は実際にはほとんど重要ではないが、MXプログラムは、完全に秘密の、別のミサイルシステムが資金提供および配備されている傘として使用されている。ベーター博士は、MX用の「競馬場」モバイルベースシステムの提案について激論が、アメリカの実際のモバイルミサイルの展開から注意をそらすための唯一の雷棒であると報告した。これはより小型のミサイルで、TXと呼ばれています。市販のハードウェアから開発され、アメリカの鉄道車両に搭載されている。ベーター博士は、これらのユニークな鉄道車両について説明し、後にいくつかのリスナーがそれらを発見し、音声書簡リスナーのための特別な掲示物に掲載された写真を撮りました。

1981年10月、レーガン大統領はMXミサイルをモバイルにしないことを発表し、多くの人々に衝撃を与えました。ばかげた「競馬場」計画は、その目的に役立ったが、それは欺きであり、落とされた。論争は続いているが、MXプログラムは生き残ったままである。1983年の初め、音声書簡・レポート・シリーズが終了した後、小型移動式ミサイルの概念は、戦略核軍に関するスコクロフト委員会の公的な勧告において重要な新しい要素であった。このような小型移動式ミサイルは「ミジェットマン」と呼ばれ、1990年代初頭まで配備できなかった。でも実際には、そのタイプのミサイルはすでに展開されているのです。その最大の利点は、ロシアのICBMの攻撃の脅威とは何の関係もありません。代わりに、多くの小型TXミサイルを配備することは、ロシアの宇宙艦隊がそれらすべてを監視することは不可能である。そしてBeter博士がいくつかのAudio Letterの記事で詳しく説明しているように、Minuteman TXミサイルの移動型艦隊は、ソ連の核攻撃に耐えられるように設計されていない。代わりに、ペンタゴン・ボリシェヴィキは、ロシアに対する最終的な米国の最初のストライキの鍵としてそれらを使用するつもりです。

もうひとつ考慮すべき例が「ステルス」プログラムです。これは、実際には航空機だけでなく、独自の特別な基地を持つ海軍軍艦の非常に秘密のカテゴリを含む多面的なプログラムです。1982年春にベーター博士がこれらの特別基地の存在を報告した直後に、南半球で海軍の戦争を勃発させた。この紛争の目に

見える部分はフォークランド戦争であった。

ステルス機計画への注意を制限し、最も過激で有望な開発は「幻の軍用機」の開発である。1982年の春にベーター博士によって最初に明らかにされたこの空想兵器は、原子爆弾が機械とスライドルールを追加していた時代と同じくらい、このコンピュータ時代の急進的な進歩です。アインシュタインの半仕上げのユニファイドフィールド理論は、強力なコンピュータ技術を用いて、光波を曲げることができる超伝導電磁場装置を設計するために使用されています。飛行機に内蔵されているこの装置は、光が通じない機体の周りにゾーンを形成します。その結果、遠くでは飛行機はレーダーだけでなく、目にさえ見えません。

ステルス計画に関する一般のコメントは、レーダー回避のみを指しており、光学的不可視性のはるかに驚くべき能力を指していない。再び、これは議論を、あまりにも多くの公衆の目を引くことのない幅広い武器能力に限定するために行われます。ファントムの軍用機の全能力が知られていれば、なぜそんなに急進的なものが必要なのかという疑問が浮かび上がる。

答えはロシアのまだ秘密のビーム武器にあります。幻の軍艦の視認不能フィールドに関する最も重要な事実は、視認不能自体ではなく、同じフィールドがすべてのタイプのビーム武器に対して提供する保護です。

現在、アメリカ合衆国ペンタゴンを支配しているボリシェヴィキは、これら全ての武器を使って、倒され追放されたソビエト連邦を破滅させたいと考えています。ベター・音声書簡博士の報告書に詳述されている、ロシアに対する米国による核攻撃を始めるための詳細な計画を策定した。いわゆる核「虚偽警報」は、後に事故的な核戦争のように見えるものをトリガーする能力をテストするために段階的である。米国の原子力部隊は、最初に攻撃するのではなく、報復していると信じられるようになるでしょう。

米国は、宇宙における大規模で持続的な軍事的存在から締め出されている。それでも、戦争に備えて、いくつかの重要な偵察やその他の軍事的任務を宇宙で実行する必要があります。そのためにスペースシャトルは、一般の人目には見えない形で使われています。NASAスペースシャトル計画は民間人である。しかし最初のスペースシャトル打ち上げの後、この計画の民間人ディレクターは解任された。現在、スペースシャトルの長官は、空軍将軍のジェームズ・エイブラハムソンである。

今日の世界は、歴史上初めて聖書で黙示録的な記述を生き残ることができるアルマゲドンの戦いの脅威の下で生きていると言われています。あまり知られていないのは、一部のサタニック勢力が、そのような紛争を積極的に計画し、それを起こそうとしているということです。そして、彼らは人間の創意工夫を利用して、大衆に知らせられないアルマゲドンスタイルの武器を作成しています。

まとめ

英語の原文

音声書簡レポートシリーズのカセットテープ80枚を調査すると、1枚の巨大画像が現れます。この写真の最も印象的な点は、無関係に見える無数の混迷的なニュースイベントは、結局混迷しないということです。その代わりに、彼らは皆、舞台裏で働く限られた数の力によって結ばれています。これらの力を知ると、出来事の本当の意味を分類できる方がずっと良い。

3つの主要な電力グループは、今日、世界的な影響力と力のために苦労しています。氷山のように、部分的には見えるが、ほとんどは隠れている。これらのグループは、ビッグオイル、ビッグバンキング、ビッグビジネスのロックフェラーカルテル、ボリシェヴィキ・シオニスト枢軸国、ロシアのニュークレムリン支配者です。

これらのグループ間の関係は、過去10年ほどで根本的に変化しました。ボリシェヴィキはかつてソビエト連邦を支配していたが、その間、ロックフェラー・カルテルと密かに同盟を結んでいた。しかし、彼らは反ボリシェヴィキであり、実際には、ネイティブロシア人キリスト教徒の秘密の宗派であるニュークレムリン支配者によって、ロシアのトップレベルの権力から失脚し、追放されています。1976年から1977年にかけて、ロシアの新支配者は長年のロックフェラーとソビエトの同盟を一方的に終了させ、核戦争を「一世界」政府へ向けて計画した。ロックフェラー・カルテルを支配していた4人のロックフェラー兄弟は、ロシアから追放されたボリシェヴィキをアメリカに迎えた。

これは致命的なミスであり、1978年半ばから1979年初頭にかけて、ボリシェヴィキの手に4人のロックフェラー兄弟が転覆した。それ以来、ここボリシェヴィキと再編成されたロックフェラー・カルテルとの間で、アメリカ合衆国政府を支配するための権力闘争が着実に激化してきた。一般的に言えば、ボリシェヴィキは軍事的に進歩し、ロックフェラー・カルテルは経済領域でより大きな力を持っている。1982年の初めから、ロックフェラー・カルテルとニュークレムリンの間には、共通の苦敵であるボリシェヴィキに対して、限定的なプロクオームが存在していた。一方、アメリカのボリシェヴィキとイスラエルのシオニスト支配者との強い関係は、秘密の共同軍事ジャンタであるボリシェヴィキ・シオニスト公国(Bolshevik-Zionist Axis)に、戦争に屈した。

政治、経済、国際関係(戦争を含む)は、互いに苦闘しながら、常にこれらの世界の権力派によって使用されています。経済的な操作、秘密情報操作、そして急増する秘密兵器は、この闘争の特徴です。しかし、多くのベーター博士のテープで明らかになったように、基本的な闘争は精神的なものです。

ベーター博士は1982年11月、健康状態が悪化したため、音声書簡のレポートシリーズを終了した。それ以来行われているイベントは、この参照ダイジェストの範囲を超えています。とはいえ、テープにこねられたのは、まだ妊娠中の計画や出来事に関する多くの議論であり、それらの計画を知ることは、今後の出来事の意味に関する多くの手がかりとなる。それを超えて、過去は常に未来へのプロローグです。Dr. Beter Audio Letterシリーズの7つの奇妙年の間にそのコースを走った多くのイベントを研究することで、私たちの世界でまだ働いている基礎的な力について多くのことを学ぶことができます。